

再編の波間で

地銀のサービスは今

<下>

9月初旬、養父市の山あま加工できる。商品企画や
い。小学校の旧校舎を再利用。品質管理を担う人材が来て
用して今春完成した市6次 くれれば」と話した。

産業化支援センターに、大
学生4人がインターンシッ
プ(就業体験)のため訪れ
た。「地方で農業や食に関
わる仕事が自分に合ってい
るのではないか」「古里に
どんな会社があるのか訪ね
てみたい」。そんな思いを
胸に抱く学生たちだ。

受け入れ企業の一つが、
同センターに工房を構える
食品加工の樽正本店(神戸
市灘区)。百貨店など向け
に高級ジャムを作る神戸の
加工場が手狭になり、但馬
銀行(豊岡市)の紹介で進
出した。石川徹前社長(81)
は「材料のベリー類やイチ
ゴを地元農家と連携して裁
培できれば、鮮度が高いま

お金、人材、情報が集ま
る銀行は、自治体とともに
地方創生の推進役とされ、
各地で連携協定が相次いで
いる。今回のインターンシ
ップは、農業分野で国家戦
略特区に指定されている養
父市と同行が「特区のまち
で働こう」と初めて呼び掛
けた。市内に住民票を残す

地方創生



オレンジコンポートの製造を体験する
インターンシップの学生ら(左側)＝養
父市建屋、樽正本店養父工房

れば、人口がまた減り、事
業所が減り、銀行も縮む。地
元金融機関の役割を減らし、
危険を背に、工場、事務
所、畑を回る。

篠山市を拠点に、古民家
を再生し観光の活性化に取
り組む一般社団法人ノオ
ト。藤原岳史理事(43)が、
事業を始めたころの金融機
関との交渉を振り返る。

「数千円が必要経費に
対し、貸せても100万か
200万といわれた」。担
保価値の低さに加え、客室
数が10に満たない宿泊施設
の採算面が壁だった。20
09年、複数の空き家を宿
泊施設やレストランに改装
した「集落丸山」が開業。

官民のつなぎ役へ手探り

学生世代約700人に案内
状を送り、県内外の大学な
どもに呼び掛けた。
先進地として脚光を浴び
る養父の特区だが、参加者
は定員20人に対して14人だ
着推進課長(39)は「東京発
の就職情報では目立たない
業者や農機メーカー、バス
が、いい会社はある。今後
も魅力を伝える工夫をす
行内で激しい議論があっ

(内田尚典)